

妊孕性温存を行わなかった患者の現状と今後の課題

中西佳与 (ナカニシ カヨ) 1)、

廣納愛華 1)、茅切純子 1)、松山由紀子 1)、竹林七重 1)、橋本知子 1)、中岡義晴 1)、森本義晴 2)

1) IVF なんばクリニック、2) HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】

当院では 2007 年よりがん治療前の妊孕性温存治療を行っている。受診された患者の中には妊孕性温存を希望しない場合もある。当院にて妊孕性温存治療を行わなかった女性患者について現状を明らかにし、今後の看護の課題を明確にする

【対象と方法】

2011 年 1 月から 2020 年 9 月に妊孕性温存目的で当院へ紹介受診された女性患者のうち、妊孕性温存治療を行わなかった患者について検討した

【結果】

妊孕性温存目的で受診した患者は 179 名で、そのうち妊孕性温存実施 (実施群) が 144 名 (80.4%)、妊孕性温存を希望しなかった (未実施群) が 30 名 (16.8%)、対象外が 5 名 (2.8%) であった。

平均年齢は実施群が 33.8 歳、未実施群は 31.6 歳であった。

原疾患は実施群では乳がん 70.8%、血液疾患 18.1%、その他 11.1%、未実施群では乳がん 43.3%、血液疾患 40.0%、その他 16.7% であった。

妊孕性温存治療可能な期間は短い方で数日~1 週間、長い方で 2 か月であった。

妊孕性温存を行わなかった理由として、治療を優先したい 9 名、妊孕性温存治療の期間がない 5 名、妊孕性温存治療でのリスクが心配 3 名であった。

その他「採卵による出血のリスクが心配」「治療開始が遅れるのが心配」「家族と相談して決めました」「治療について話を聞くことができてよかった」「妊娠率を考えるとするかどうか悩む」といった声が聞かれた。

【考察】

治療可能期間が短い場合は初診時に妊孕性温存治療をするかの決断が必要となる。現在、妊孕性温存治療の説明動画を使用しているが、今後は動画配信サービスを使用し、受診前に情報提供できるようなシステム作りを進めていく。

また、原疾患治療が最優先となるため、育児希望があっても治療期間や心身状態、家族の思い等様々な理由で妊孕性温存を希望しないことが分かった。特に血液疾患の患者に著明であった。そのような患者には、今回の決断を尊重した上で、原疾患治療後の不妊治療や養子縁組、卵子提供などの選択肢についても情報提供していく。